



発行所  
山口県小学校長会  
代表者 村川直樹  
校長会事務局  
山口市大手町2-18  
☎ 083-925-2919  
FAX 083-925-6776  
印刷所  
大村印刷株式会社

## 令和二年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 岡野 富司雄

### 一 はじめに

昨年二月に出された文部科学省の通知を受け、日本中の学校が一齐に休校し、通常の教育活動を行うことが困難となった。令和二年度になってからもその影響が継続し、再び四月から五月にかけて県内一斉に休校することとなった。そのような中、山口県小学校長会は、村川直樹会長の下、十五支部二百八十名でスタートした。学校は今年度から完全実施となった新学習指導要領が目指す「質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けるような力」を育成することが求められる一方で、プログラミング教育や外国語教育の充実、教職員の人材育成や働き方改革等、学校として取り組むべき課題が山積している。本校長会では、このような現状を踏まえ、今年度は五つの重点を設定し、コロナ禍にありながらも様々な活動に取り組んできた。

### 二 研究の推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、五月八日の総会並びに春季教育研究大会は、紙面での実施となった。山口県小学校長会の活動方針に基づき、全連小の新しい研究主題を本県の研究主題とし、副主題を新しく「高い志をもって 他者と協働し 新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開」として研究を開始することとし、一年間の方向性を確認した。さらに、十一月十三日に予定していた秋季教育研究大会兼中国地区小学校長会教育研究大会山口大会もコロナ禍ということで誌上発表となった。残念ながら中国五県の校長が参集して研究協議することはできなかったが、各県の提案発表者の協力のお陰で、大会要項を作成し、五領域十三分科会の提案内容をまとめることができた。本研究内容が次年度にしっかりと引き継がれることを切に願うものである。

### 三 研修の充実

各支部の研修活動と連動し、理事会においてもコロナ禍における情報共有を中心に研修を行った。特に、学校行事の開催方法や内容、保護者への通知方法、危機管理として罹患者が出た場合の学校の対応方法など、多くのことについて情報提供と情報共有を行ったことは大変有意義であった。加えて、三年前倒しとなったGIGAスクール構想による一端末の各市町の進捗状況とその対応についても情報交換を行い、活用の際の課題も明らかになってきた。これまでの当たり前を見直し、withコロナ、afterコロナの学校経営や運営に資することができた。

### 四 おわりに

急速に変化する予測困難な社会の中で、コロナ禍も加わり、学校に求められる役割は年々増加している。一方、教職員の働き方改革は法的に位置付けられ、その推進は喫緊の課題である。学校という場所は、子どもたちや教職員にとっても地域にとっても価値ある居場所であり続けなければならない。そのためにも、学校のリーダーである校長がこれまでの取組を見直し、一層の自己研鑽を積むとともに、学校課題の解決に向け、保護者・地域や他の校種、関係機関と連携し、組織的・継続的な動きを構築することが必要である。これからの日本の未来を創る子どもたちのために、本校長会は、今後も凝集性を高め、組織の活性化を目指して互いに連携・協働するつながりのある温かい関係であり続けていきたい。

## 全連小報告

史上初 誌上発表大会

萩市立川上小学校長

俣賀 信裕

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に、十月二十九日(木)～三十日(金)の日程で開催予定であった「第七十二回全国連合小学校長会研究協議会京都大会」が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、史上初となる誌上発表大会となった。

本来であれば、今年度は新指導要領完全実施という大きな節目の年であった。本大会で予定されていた十三分科会並びにシンポジウムを通して、よりよい学校教育に向けた新たな実践や提案を多くの学校が参考にできるはずであったが、コロナ禍により、全国から参集して一堂に会しての研究協議や情報交換が叶わなかったことは、大変残念であった。

しかしながら、大会関係者各位の御尽力により大会要録が編纂され各県に配布されるとともに、京都府小学校長会ホームページに研究発表の内容等が掲載された。是非とも各校の今後の学校経営及び運営の参考にされたい。

京都大会の誌上発表の内容が次年度の石川大会に引き継がれ、無事開催されることを心より祈念している。

# 退職なさる校長先生方 からのメッセージ



岩国市立そお小学校

上田 隆敏

初任校 岩国市立柱野小学校

座右の銘 夢なき者に成功なし

初任の頃に抱いた夢。それは理想とする教師になること。そして、理想とする学校を、創り上げることであった。この二つの夢を、自分なりにひたすら追いかけてきた。

校長となり、「校長が夢を抱き、夢を語れないようではどうする」と思いつつも、痛感した理想と現実のギャップ

岩国市立周北小学校

木村 真彦

初任校 下松市立公集小学校

座右の銘 岩岳スキースクール校訓(本文参照)

右の銘である。この校訓を知ってから三十五年以上経つが、相手のことを思いやる、もの凄く深い言葉だと今でも思う。

この座右の銘に従い、私は静かに教育界を去ろうと思う。ただ私に良い方向で関わってくださった、全ての方々へ、感謝の念だけは決して忘れずに。

柳井市立日積小学校

國井 貞宏

初任校 下関市立関西小学校

座右の銘 井戸を掘るなら、水が湧くところまで掘れ

新採研のまとめとして、昭和五十八年度「あすなる」が発行された。興奮すると手のつけられない男児のことを題材に、「先生、ぼくはクラスで一番喧嘩が弱い。だからぼくの気持ちをおかしてほしい。」と心を開いてくれるようになった喜びを綴っていた。力不足を認めつつ、児童理解を軸に二年次

それから三十八年、常に「井戸はあ

るはずだ」と信じ続け、「いつになったら水が出るのか」「無駄な作業ではないか」との不安と戦いながらの教職人生。井戸の水は出たかどうか分から

たように思える。三十年以上前の古き

良き時代の懐かしい思い出である。



岩国市立麻里布小学校  
初任校 橘町立安下庄小学校  
座右の銘 心を開き 心で伝え 心でつながる

村川 直樹

多くの人々との出会いが、今日まで私を支え、導いてくれた。

初任校は印象深いが、地域や時代が変わっても、子どもの伸びようとする眼差しや「できた」「わかった」と達成感を味わうときの表情の輝きは常に素晴らしい。こちらの思いが心に届いたときの穏やかな表情も同様である。

人は心で生きている。教職人生の後半になって、何かを為そうとするとき、時間はかかっても、子どもや同僚・保護者と心を通わせることが大切である



岩国市立玖珂小学校  
初任校 田布施町立麻里府小学校  
座右の銘 辛いときは、気合いと根性(大学時代の先輩の口癖)

片山 成樹

多くの子どもに届けられなかったことを悔いしつつも、関わっていただいた

新任教頭として着任した宇部市立新川小学校も、印象的であった。右も左もわからぬ宇部市であったが、子どもたちは素直で、特に教頭会では楽しく

過ごさせていただいた。教職生活の最後となる玖珂小学校では、今までの経験をフルに生かした充実した日々を送ることができた。感謝のみである。



柳井市立伊陸小学校  
初任校 山口県立田布施養護学校  
座右の銘 教育の原点

重岡 正幸

多様な勤務地での貴重な経験を通して、多くのことを学ぶことができました。すばらしい児童生徒たち、先生方に恵まれたことを心より感謝申し上げます。これまで大切にしてきたことは、初任校でご指導いただいた「教育の原点」という言葉です。これからも、この言葉を大切にしてまいります。



周防大島町立城山小学校  
初任校 周防大島町立椋野小学校  
座右の銘 春風を以て人に接し 秋霜を以て自ら慎む

松林 光司

故郷である周防大島町において、教職生活をスタートさせた。三浦小学校で臨時採用教員として一年間担任を経験した後、四月には新任教員として一つ越えた椋野小学校に着任した。涙を流して別れた子どもたちが、数日後に会いに来てくれたことを思い出す。その後、周防大島町の小学校を中心

として九校に勤務してきた。担任時はできるだけ児童と同じ活動をし、子ども目線で考えることを大切にしてきたつもりである。管理職になってからは、教職員の思いを大切に考えるようにしてきた。多くの方に支えられて退職を迎えることができたことに感謝している。



下松市立久保小学校  
初任校 下松市立公集小学校  
座右の銘 感謝・自己研鑽

長谷川 敬

「部下の苦しみは、上司の苦しみ」教職六年目、少しの慢心が要因となつたのか、業務をうまく回せず、悩んでいた時の校長の一言である。仕事に厳しい方であっただけに、この言葉にどれだけ勇気付けられ、このような上司になりたかったか。三十七年間、子どもや保護者、上司や同僚、地

域の方、そして家族に支えられ、今の私がある。教職を選んだことで、少なからず自己研鑽できた。また、最後の年にポストコロナを見据えた学校教育の舵取りを担わせていただいたことにも感謝している。一つの区切りをつけながら、これからも、感謝の気持ちを忘れず、研鑽を続けたい。



光市立光井小学校  
初任校 山口市立嘉川小学校  
座右の銘 走りながら考える

田中 敬二

振り返れば、迷うことの多い教職生活だった。その分、多くの方に助けていただいた。何をやるにしても、ずっと迷いながら進んでいた。その時の判断がベストかどうかは、わからなかった。いつももっといい方法があったかもしれないと思っていた。いつしか「走りながら考える」ようになった。

これからの時代は、その都度その状況での当事者間の納得解を得ていくことが重視されるという。とすれば、「走りながら考える」も悪くなかったと言えるのではないかと。多くの方に支えていただいた。恥じ入ることばかりだったけど、感謝の気持ちだけはもっている。お世話になりました。



周南市久米小学校  
初任校 光市立浅江小学校  
座右の銘 心に太陽を くにびるに歌を

石田 勝己

「校長先生は顔が広いですね。」とよく言われる。顔が大きいの間違いではない。あまり自覚はないが、もしそうだとしたら、これまで多くに関わり助けられてきたという証であろう。私はすぐに人に頼る。よく知らない相手でも笑顔でずうずうしく頼っていく。頼り頼られて人とのつながりは深くなる。

以前実習生に「教員に必要な資質は何か」という質問を受けたことがある。私は迷わず『明るさと素直さ』と答えた。その考えは今も変わっていない。大きな危機と向き合う今こそ、校長自身がいつも明るい笑顔で、教員を照らす太陽であってほしいと願う。



周南市立夜市小学校  
初任校 光市立室積小学校  
座右の銘 みんな美しい 負けずに咲こう

久保田 尚

『あ、おまへはなにをしてきたのだと...』吹き来る風が私に云ふ。中原中也あつという間の教職人生。自分はないをしてきただろう。初任校から自分の好きな音楽を通して、子どもたち保護者・地域の方、そして先生方と関

言葉は通じなくても音楽で喜びを共有する貴重な経験もできた。これまで現場と附属校や大学を行き来するたびに辞職願を書いてきたが、いよいよ本当の退職の時。最後の一年は感慨深く過ぎるのかと思いきや、毎日が教職初の出来事だらけ。ここまでこられたのも支えてくださった皆様のおかげ、感謝。



周南市立戸田小学校 廣田 好史  
初任校 山口市立小鯖小学校  
座右の銘 いつも心に太陽を

「いつも心に太陽を」一九六七年公開のイギリス映画のタイトルだ。原作の日本語訳が一九六〇年に出版されているが、奇しくもこの年は私の生まれた年でもある。

多くの児童や保護者、先生方や地域の方と出会ってきた教員生活の大半はとても楽しく充実していた。私の心の

中にはいつも太陽が輝いていた。もちろん苦しくて逃げ出したかった時もあった。そんな時は、心の太陽をなくさないよう心がけ、がんばってきた。これからの第二の人生においても、いつも心に太陽をもち続けたい。ちなみに、この映画は学園もので、原題は「先生へ、愛をこめて」だ。



周南市立周陽小学校 國澤 尚明  
初任校 周東町立周東中学校  
座右の銘 誠実

どの学校にも必ず課題がある。課題のない学校などありはしない。もしないとなれば、それは気付かれていないだけである。気付けばいくらでもある。課題は与えられるものでもなければ、まして指示されるものではない。ただ、目の前にあるだけである。

課題に気付くとは、発見することである。課題の発見が全ての始まりであり、発見したときには、すでに解決の糸口が見えているものである。偉そうな書きぶりですが、校長として一番意識してきたことです。これからは、自己の課題と向き合っていくます。校長先生方は、どのような課題と向き合っておられますか？



周南市立鼓南小学校 菊野 良  
初任校 徳山市立周陽中学校  
座右の銘 住めば都

時には支えられ、時には支え、今日までこられた教員生活。臨採を含めると中学校七校、小学校二校、街中の学校、山間部の学校、海辺の学校、大規模校、中規模校、小規模校と多様な環境の学校で三十七年間勤務させていた。若い頃、着任直後は、新しい環境に慣れず、前任校と比べてしまい

置かれた環境に不満をもったこともたびたびあった。しかし、不思議なもので、腰を据えて、児童生徒、保護者、地域、そして教職員の方々と向かい合うと、その環境が居心地よく感じられる。まさに、「住めば都」である。これも、私を受け入れてくれたすべての方々のお陰である。感謝！



周南市立大河内小学校 勢一 嘉治  
初任校 徳山市立湯野小学校  
座右の銘 できないという前に、まずはやってみる

今、一番に心に浮かぶことは、「感謝」という言葉である。多くの人に支えられ、教師として子どもたちの成長に携われたことは、感無量である。大規模校で生徒指導や教務主任を経験させていただき、今日はどんなことが起きるか不安を抱きながら奮闘していたことが懐かしく感じられる。この子たち

のためにできることは何でもしようという思いで取り組み、私自身も教師として成長することができた。振り返ってみると、今、できることをやってみる勇気と知恵を出し合う連携が大切だと思ふ。たくさんの方に助けられたことに改めて感謝すると共に、皆さんのご健闘を心から願っている。



周南市立鹿野小学校 岩田 宏明  
初任校 徳山市立櫛浜小学校  
座右の銘 公明正大「裏を見せ表を見せては散るもみじ」

この句は愛と慈しみの詩人と呼ばれた江戸後期の歌人、良寛和尚の辞世の句である。めまぐるしく変化する現代社会において、人々の価値観は多様化し大きく変わってきた。先が見えない危機への対処方法として、学校管理の姿勢は、常に裏表なく公明正大にしておくことにあるのではないかと思ふ。

公明正大とは私心をさしはさまず公正に事を行うという意味である。隠しごとをせず、普段から一生懸命にやるべきことをきちんとしておくこと、そして子どもにとことん寄り添うことを大切にしてきた。行く先々で、素晴らしき人との出会いに恵まれた教員生活だった。心から感謝している。



山口市立白石小学校 藤永 靖彦  
初任校 小野田市立高千帆小学校  
座右の銘 愛語回天の力あり

初任より高千帆小、淳美小、二島小、大殿小、教頭として豊東小、白石小、サマンサジャパンにて一年間研修し、校長として向井小、常盤小、白石小に勤めさせていただいた。

よい出会いとよい縁に恵まれた楽しく幸せな教員生活であった。校長になってからは、困ったときは「そうじ」と「神だのみ」であった。皆様、本当にありがとうございました。



山口市立二島小学校

辻本紳一郎

初任校 阿知須町立阿知須小学校

座右の銘 自分が信じて蒔いた種は、いつかきつと芽を出す

最近、若い頃に教えた子どもたちの顔や声をよく思い出す。大学入学時に神戸からやってきて、ここで退職するとは当時は思いもよらなかった。何だかあつという間の教員人生だったが、しつかり楽しみ、人と出会う喜びもたくさん味わった。今は学校で仕事ができきた幸せをかみしめている。



山口市立嘉川小学校

中村 浩司

初任校 美祢郡秋芳町立嘉万小学校

座右の銘 人にやさしく 自分にきびしく

美祢郡秋芳町を振り出しに、山口市、阿武郡旭村、下関市、岩国市、美祢市と県内様々な地域の学校に勤務させていただいた。複式学級のある小規模校から児童数一四〇〇を超える大規模校まで経験することもできた。そして、そこには数々の出会いがあった。教師としての道筋をつけてきた。様々な出会いに感謝したい。



山口市立鑄銭司小学校

久恒香代子

初任校 下関市立向井小学校

座右の銘 Be positive (前向きであれ)

初任の向井小学校は、海の見える高台にあり、窓からは関門海峡を行き来する船と造船所のクレーンが見えた。「ほんものはつづく、つづけるとほんものになる」という合い言葉のもと、朝の作文に取り組んだ。あれから三十七年、教師を続けてきたが、果たして「ほんもの」となれたかどうか……



山口市立大内小学校

舛谷 晃

初任校 下関市立西山小学校

座右の銘 毎日を人生最後の日だと思って生きる。

校長室に飾ってある歴代校長の写真を眺める。自分が小学校に入学した時の校長先生や小学校の卒業証書を渡して下さった校長先生に見守られて校長最後の三年間を過ごした。地域の知り合いや教職員に支えられて自分の役割を終えられた事に改めて感謝の気持ちでいっぱいである。実は、自分の母(もうとうに亡くなる)校長室に飾ってある歴代校長の写真を眺める。自分が小学校に入学した時の校長先生や小学校の卒業証書を渡して下さった校長先生に見守られて校長最後の三年間を過ごした。地域の知り合いや教職員に支えられて自分の役割を終えられた事に改めて感謝の気持ちでいっぱいである。実は、自分の母(もうとうに亡くなる)校長室に飾ってある歴代校長の写真を眺める。自分が小学校に入学した時の校長先生や小学校の卒業証書を渡して下さった校長先生に見守られて校長最後の三年間を過ごした。地域の知り合いや教職員に支えられて自分の役割を終えられた事に改めて感謝の気持ちでいっぱいである。



山口市立大内南小学校

小野 範雄

初任校 長門市立通小学校

座右の銘 教育は人なり

教育の道を選択し、多くの人との出会いがあった。自分の生き方を左右する出会いも数多く経験した。全ては、人から学ばせていただいた。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。初任校の校長先生から、「三つの教育」と教えられた。できたか？



山口市立秋穂小学校

村田 利樹

初任校 下関市立向井小学校

座右の銘 いい加減なら言い訳をする 一生懸命なら知恵が出る 中途半端だと愚痴を言う

例えば三十五年間の教職生活の初任は五年担任。当時は学年五クラスの大規模校で、先輩諸氏に導かれながらの四年間であった。次の徳地町では同一校十年で、道徳の自主研修に勤しんだ後、防府市勤務をはさんで町教委と教育庁の社会教育を六年間。コミスクの萌芽の時代で、学校支援ボランティア



山口市立大海小学校 初任校 萩市椿東小学校 座右の銘 一期一会 中原 誠輔

改めて自分の教職人生を振り返ってみると、いかに多くの方々に支えられてきたことかと痛感する。子どもたち、保護者や地域の方々、そして先生方。両手に抱えきれないほどのたくさんの思い出が走馬灯のように頭の中を駆け巡り、最高に楽しかったあの日のことが鮮やかによみがえってくる。どこか



山口市立八坂小学校 初任校 防府市立大道小学校 座右の銘 人は結局人からしか学べない 山本 浩之

出身は下関市であるが、防府市に長く勤め、周防大島町、岩国市、山口市でお世話になった。一番心に残っている学校は十年間勤めた松崎小である。仕事もがんばったが、それ以上にミニバスケットの指導をがんばっていた。一番の思い出は全国大会に二度出場したことである。その後、兵庫教育大学



防府市立野島小中学校 初任校 下関市立垢田中学校 座右の銘 己の欲せざるところは人に施す勿れ 光田 賢次

島根県の工業高校で臨時採用の英語科教員としてスタートし、下関、山口、防府、宇部の八校の中学校に勤務した。最後に小中学校の校長となり、小中高で様々な児童生徒、先生方に囲まれて幸せな教員生活であったと思う。また、防府市教育委員会での社会教育主事としての三年間は、学校、家庭、



防府市立西浦小学校 初任校 防府市立富海小学校 座右の銘 今、この配役に全力を尽くす 廣森やす子

目の前の子どもたちに向かいながら毎日過ごし、年月を重ねてきた。子どもの成長に関われる素晴らしい仕事であった。同僚とともに悩み、考え、笑い合った職員室の時間が愛おしい。こんなにも長く続けてこられたのは、多くの方の導きや支えがあったからだ。改めて感謝の思いでいっぱいである。



防府市立富海小中学校 初任校 宇部市立上宇部中学校 座右の銘 誠実 絆、地域とともにある 五島 均

県内でも有数の大規模校から私の教職生活が始まった。当時は問題行動に対応できず多くの教職員に迷惑をおかした。その都度先輩教員に助けられ今の私がある。組織で問題解決にあたることの大切さを痛感した。教職十年を過ぎたとき社会教育部局へ転勤となり、地域の方々から多くのことを学ん



宇部市立岬小学校 初任校 楠町立吉部中学校 座右の銘 一期一会 内田 京子

「声がかかった時は、あなたの成長の時だと思つて、断らずに挑戦していくのよ。」教員に成り立ての頃、尊敬する先輩女性教員に教わった生き方は私の教員生活の大きな支えとなった。初めての業務に就くときの不安や自信のなさは数知れず。けれども、教員仲間との協働や管理職の支援、生徒、恩返しをしていければと願っている。



宇部市立琴芝小学校

安平 秀行

初任校 大島町立明新小学校

座右の銘 天命に従って 人事を尽くす

右の言葉は、校長採用時に赴任先の教育長から頂いた言葉である。「あなたがここへ来たのは、あなたの意思ではなく天命である。意味があつてここにいるのだから、子どもたちのために、ここでできることを精一杯やりなさい。」と。以来、なぜ自分がここにいいのか、何を期待されているのか、何



山陽小野田市立本山小学校

佐々木智子

初任校 徳山市立周陽小学校

座右の銘 なにがあつても ありがとう

座右の銘は、かの渋沢栄一翁のご令孫の鮫島純子氏にご縁を頂き、ご教示頂いた言葉である。ゴールを目前に、ここまで辿り着けたのは、本当に多くの人とのご縁と絆のおかげである。常にたくさんの方々から見えない後押しや支えを頂いていたのだ！と感謝に満たされる。今思うと、苦い思い出や恥



下関市立王江小学校

西嶋 高成

初任校 旭村立佐々並小学校

座右の銘 感謝

多くの先輩や同僚からたくさんのお話を学び、教師としてのあるべき姿を教えていただいた。そして何より自分を教師として成長させてくれたのは、いつも明るい笑顔と素直な心で接してくれた子どもたちである。地域の方、保護者も含め出会った多くの方々には、感謝の気持ちでいっぱいである。



下関市立吉見小学校

井上 光晴

初任校 新南陽市立富田東小学校

座右の銘 一隅を照らす

校長として、三校でお世話になった。それぞれの学校に、大切にしている言葉があつた。一校目の周南市立須磨小学校は、「須く磨くべし」である。極小規模校だけに、地域と一体となって全力で取り組んだ三年間だった。二校目の下関市立向井小学校は、「本物は続く 続けると本物になる」。日々の



下関市立王喜小学校

増元 進

初任校 大津郡三隅町立浅田小学校

座右の銘 幸せは、自分の心次第 愛は愛を育てる

周りが信じられず、とんがっていた若い頃。今思い出しても、周りに迷惑をかけていたのだらうなあと反省し、自分自身が恥ずかしくなってくる。そんな自分が変わり始めたのは、四十年代後半になってから。何が私を変えたのか。それは、子どもたちを教えるから、自分自身も学んでいたというこ



下関市立一の宮小学校

溝部 哲正

初任校 福栄村立紫福小学校

座右の銘 人間万事塞翁が馬

五年前、三年間の単身赴任を終え、下関市の学校に帰ってきた。退職された先輩校長がわざわざ激励に来校された。「溝部さん、やり遂げること・・・。」と静かな口調で短い言葉をかけてくださった。校長室にも寄らずに帰られた。そのときは、その言葉のもつ意味が正直入ってこなかったが、校長職最後の



下関市立熊野小学校  
初任校 防府市立富海小学校  
座右の銘 風の吹くままに

木下 満明

今でも美しい富海の花が目に浮かぶ。子どもたちと、よく魚釣りに出かけたものである。教師としての基礎は、新任の富海小学校での四年間で全て学んだと言っても過言ではない。先輩に教えてもらった、何事に対しても「こうしたらもっと良くなるので

はないか。」という願いをもちながら、実現に向けて悪戦苦闘することの「楽しさ」が、今日までの私を支えてくれた。お世話になった全ての方に、感謝したい。



下関市立勝山小学校(令和元年度退職)  
初任校 豊田町立西市小学校  
座右の銘 和顔愛語 幸せは自分のこころが決める

小林 豊和

「先生、変わってないね。私のことわかる?」わかるよ。〇〇じゃないか。「すごい。覚えててくれたんだ。」「当たり前じゃないか。」私はこのような出会いが大好きだ。教師をやっているよかったなと心から思える。思わずにっこりしてしまう。成長した教え子の姿に、元気をもらうこともできる。

教師になって、先輩・同僚・地域の方など多くの人との出会いがあり、出会った人たちが、つらい時は励ましてくれ、嬉しい時は一緒に笑ってくれた。このようなすてきな出会いが私の助けに、そして支えになってきた。本当に感謝している。人との出会いが心を豊かにし、すてきな笑顔を生み出す。



萩市立明倫小学校  
初任校 山口市立宮野小学校  
座右の銘 お陰様の人生

岡野富司雄

「お陰様の人生じゃからのう。」新採の頃、大先輩の校長先生が会うたびに言われていた言葉である。長い教員人生でいろいろな人と出会った。そして、稚拙な自分を支え、育んでいただいた。管理職をはじめ先輩や同僚の教職員、保護者・地域の方々、そして、何よりも素敵な子どもたち。

今この時、この場に居ることができるのは、これまで出会った多くの方々のお陰である。ようやく大先輩の言葉の意味が身にしみて実感できるようになった。これからは、お世話になった方々に少しでも恩返しができるように第二の人生を過ごしていきたいと思う。「お陰様」の気持ちを忘れずに。



萩市立椿東小学校  
初任校 萩市立椿東小学校  
座右の銘 死而後已(死してのちやむ)

國森 秀昭

椿東小学校には、格別の思いがある。新採、四十代、校長と三回も同じ学校で勤務できたことは珍しいことではないだろうか。教員人生をここで始め、ここで終われることに喜びを感じる。松下村塾のお膝元の椿東小学校の特色の一つに、松陰教学があげられる。一年生から六年生までの六年間で、十

八首の松陰先生の言葉を覚え、朗誦し、卒業していく。必然的に、私の生き方、教育観も松陰先生の言葉の影響は大である。「死而後已」という四文字も松陰先生の言葉の中から知った。「死ぬまで努力を惜しまない」という意味であるが、これから大事にしていきたい。



萩市立白水小学校  
初任校 美祢市立城原小学校  
座右の銘 至誠にして動かざるは未だ之れあらざるなり

田中 正己

教職に就いてから十四年間は、複式学級のある小規模校に勤務し、全ての教科主任、分掌主任を務めた。青年の家の社会教育主事としての三年間は、地域との連携について学んだ。特別支援教育に携わった三年間は、個に応じた支援について徹底的に考えた。これらの経験は、後に大規模校での教務主

任や、管理職となった際に、貴重な経験として生きた。退職直前の本校勤務の際に「感じのよい白水小学校」というスローガンを掲げ、子どもたち一人ひとりに「感じのよい行動」について考えさせ実行させた。今後、この子どもたちが、さらに「感じよく」成長していけるよう、次代の教職員に託す。



萩市立明木小学校  
初任校 萩市立指月中学校  
座右の銘 スマイル

武波英次郎

社会人を経験して三十歳で初任校の萩市立指月中学校に赴任した。バレーボールと生徒指導に明け暮れた毎日をもとても懐かしく思う。これまでの教員人生で何とんでも忘れられないのが、「『地域協育ネット』の県内全中学校への配置」に携わったことである。学校、家庭、地域の連携・

協働は今後も欠かせないと思う。これからは、地域住民の一人として、学校にも積極的に関わっていききたい。今日まで、子どもたちの笑顔とたくさんの方々の応援に支えられ何とかここまで教員生活を全うできたことを誇りに思うとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



◆ 新たな研究主題のもとで



研究部長  
坂本 哲彦  
(山口市立良城小学校)

本年度から、新たな研究主題として「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を、副主題として「高志をもって他者と協働し、新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開」を設定し、研究を開始した。

令和二年十一月十三日に山口市において開催予定であった「第六十七回中国地区小学校長会山口大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、誌上発表となった。

これまで各県、各支部において鋭意積み重ねてきた取組の成果について、例年同様「大会要項」としてまとめ、配布することで、各研究の発表及び情報交換の機会とした。全十三分科会のうち、山口県は、全部で十の分科会において研究を発表した。各支部が組織的に推進した実践研究等が詳しく掲載されているので、しっかり読んで、今後の各支部の研究、学校経営や校長の指導性の発揮に役立てていただきたい。なお、全国大会京都大会も誌上発表となったが、本県の発表はなかった。また、例年通り設置した「研究課題検討委員会」では、令和四年度の本県の研究主題、副主題、各分科会の研究課題等を作成している。

◆ 教職員の人材育成に向けて



対策部長  
西本 隆  
(下松市立下松小学校)

対策部は、各支部の校長会や教育関係諸団体の貴重な意見を参考に、提言書の作成に取り組んでいる。提言書は、教育行政と学校が力を合わせて山口県教育を充実させるという視点で作成している。

提言書説明会では、提言内容の説明とともに、学校の教育環境や教育活動の状況を交え、山口県教育の充実に向けた協議を行ってきた。

本年度は「教職員の人材育成」を中心に、加配教員等による学校運営の状況、特別支援教育のより一層の充実、一人職（養護教諭・栄養教諭・事務職員）の配置の工夫・改善、中心校制度や学校担当指導主事の活用、やまぐち型地域連携教育の充実等、学校を取り巻く諸課題について協議が行われた。

県教委からは「同じ視点で教育活動を充実させるためにも校長会等の場を双方の協議を行い関係性をより向上させたい」との言葉を頂いた。

学校の組織力強化と学校運営の質的向上、人材育成等に努め、「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」に向けて、小学校長会が力をより一層発揮していく必要性を再認識した。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 価値ある取組の継続に向けて



広報部長  
井上 光晴  
(下関市立吉見小学校)

広報部は、山口県小学校長会の活動方針に基づいた活動の周知を図り、会員が学校経営をより確か豊かにしていくための参考となる情報伝達活動に努めてきた。具体的には、広報誌『会報』、機関誌『歩み』の編集にかかわる二つの委員会を組織し、全部員で協力しながら、主体的かつ積極的に活動を行い、その作成に向け取り組んできた。さらに今年度は、中国地区小学校長会教育研究大会山口大会の報告書を作るという役割を担う予定であった。しかし、誌上発表大会となったことで、その必要はなくなった。その他、全連小関係では、機関誌『小学校時報』や教育研究シリーズ第五十九集の執筆や、調査への協力、ホームページへの情報提供を行った。

これらは全て、各支部、各校、各校長先生方の取組がベースになっており、執筆に快く協力していただいた皆様に対して、深く感謝すると共に、改めてお礼を申し上げたい。

一方で、業務改善や経費削減の視点から、活動自体を検討していく必要がある。コロナ禍で難しい面もあるが、広報部員の意見を大切にしつつ、常任理事会や理事会の中でもよく相談、検討を行い、継続できる価値のある活動の在り方を模索していきたい。

◆ 今年度の調査活動を通して



調査部長  
國友 孝  
(長門市立俵山小学校)

今年度の調査部の活動は、コロナ禍での活動であったことから、部会を一回に減らして「調査処理委員会」と「経営管理委員会」の二委員会、継続的な教育調査と当面する課題究明のための調査研究を行った。

まず、市町教育費調査では、児童一人あたりの教育費について、市町間格差が広がる状況が明らかとなった。

次に、今年度の学級編成及び教職員配置調査からは、今後数年間は児童数の減少が続き、若手教員は増加していくことが確認できた。

また、よりよい学校経営に関しての調査では、「学校における安全対策と危機管理」を学校経営上の重要課題と捉える校長が最も多かった。

さらに、校長自身の資質能力向上に関する調査の中で、「今日的な課題解決のための研修」として、危機管理下の学校経営や働き方改革、業務改善をあげる校長が多かった。

以上の調査結果から、各校においては、限られた予算の中で工夫しながら学校運営を進めるとともに、コロナ禍での学校経営や喫緊の課題解決に向けて、全力で取り組んでいることが明らかとなった。今後においては、より一層の明確な経営ビジョンとリーダーシップの発揮が望まれる。

支 部 情 報

周 南 支 部

連携を通じたリーダー育成と校長の役割

周南支部は、市内二十七校の会員で組織されており、周南市の教育基本理念「子どもの夢に寄り添い『生き抜く力』を育む 周南の教育」の具現化に向け、全小学校が一致団結して研鑽に努めるとともに、保護者や地域、そして接続する小中学校が連携し、地域とともにある学校の実現を目指し、学校経営に取り組んでいる。

毎月の校長研修会では、「課題解決のための校長の役割とリーダーシップ」の究明のために、「人材育成のための仕組みづくり」、「課題に応じた組織マネジメント」、「校内研修の充実と教員



の資質向上」を研究の柱に研修を深めている。また、市全体や各校で抱えている課題について日常的に情報交換すること

で様々な学校運営上の問題を共有し、建設的な協議を行う質の高い校長会を目指している。

一般研修では、市教育委員会等から講師を招いての講話（教育長、教育部次長）、課題別研修、退職校長からの実践発表（七名）を行っている。

課題別研修では、新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントや生徒指導上の諸課題について、県教育委員会等から講師を迎えて講話、協議などを行う予定だったが本年度はコロナ禍のため中止となった。さらに GIGA スクール構想による環境整備に関する意見交換やオンラインによる会議および研修のあり方などについても認識を深めた。

提案関係研修では、「連携を通じたリーダー育成と校長の役割」の研究課題のもと、①リーダーに求められる資質能力の明確化、②「連携」を視点に取組を整理、③校長の果たすべき役割について研究を進め、その成果を秋季研修大会で発表した。（紙面）また、次年度からの課題「危機対応」についても取組を始めるところである。

今後、二十七校の校長が連携を深めながら協働し、全ての子どもたちの笑顔のために「全集中」で取り組んでいきたい。

（周南市立秋月小学校 中村 省吾）

支 部 情 報

支 部 情 報

下 関 支 部

学び続け、学びを楽しんでいる仲間

下関支部は、学校が七地区と広域にわたっており、会員数も四十四名と大変多い。このような大所帯ではあるが、一つの会場に全会員が集まる年十一年の校長研修会を計画的に設定し、開催している。

今年度、校長研修会では、「児童、教職員、保護者、地域のやる気を引き出す評価・改善の在り方」と「働き方改革を踏まえた教職員の学校運営への参画意識の向上」を中心に、学校規模別にグループをつくって研究を進めてきた。

ともすれば、評価が形だけに終わったり、評価そのものが目的になってしまったりするが、他校の実践や他の方々の考えを聞くことで、「何をどのように評価すればいいのか」「その際の校長の役割は何か」といったことに目が向き、取組を改善し、前に進むための評価、一人一人に当事者意識をもたせる方法等々、たくさんのご意見を学ぶことができた。

また、今年度は、コロナ禍という大変な状況の中、危機管理の在り方や行

事の開催の仕方、夏季休業短縮に伴う対応、修学旅行や宿泊学習について等、情報交換を行う機会を設け、よりよい学校運営に向けての情報の共有化に努めてきた。各学校にとって、先が見えない状況の中、この情報交換の場が、心強い支えになったことは言うまでもない。

下関市では、「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志」を教育理念に、「学ぶ力」の育成を通して、「学びが好きなき子ども」を育て、「学びの街・下関」の実現に向けて、日々、教育の充実・発展に努めている。そのためには、まずは大人が学び続ける姿、学びを楽しんでいる姿を見せることが肝要である。下関支部の四十四名の会員は、まさに学び続け、その学びを楽しんでいる。このような仲間がいて心強く思うと同時に、下関の未来は明るいと思える。

信じている。

（下関市立王喜小学校 増元 進）





本年度、新任校長として着任した山口市徳地の山あいにある串小校区は、「にほんの里一〇〇選」

の地。周囲の美しい景観に溶け込んだきれいな学校、そのきれいなゆえに、地域に大切にされている学校、といった第一印象を今でも鮮明に覚えている。そして、校庭の桜と同様に、私の気持ちがあわくわく感で満開になったことが思い出される。

そうして始まったコロナ禍の令和二年度。長引く休校、中止や縮小される学校行事や地域行事。まさに異例づくめの学校生活。ままならぬ思いを抱きつつ日々を送ることになった。

地域との協働活動が実施できるようになったのは、短い夏休みが終わった頃の環境整備作業からであった。

「ゆたかな申を育てる会」を中心とした地域の方々に協力いただいたが、印象的だったのは、協力ではなく「自分事」として作業に勤しむ姿であり、当事者意識の高さであった。また、秋も深まった頃、独居高齢者への声かけを行う住民主導型の「心くばりネットワーク」という取組を知り、支え合いという「軸」が地域ぐるみの営みに貫かれていることを実感させられた。

その実感と同時に、着任以来、地域の方と会話を交わすたびに抱いた、あの感慨が蘇った。それは、地域の温もりに溶け込んだ安心感。その安心感の

後景に、地域の学校に対しても変わらない「自分事」と「軸」があったことが感得でき、これまでの出来事や地域の方々とのふれあいの全てがつながったように感じた。「にほんの里一〇〇選」の選定基準の一つが「人の営み」ということにも得心した。

コロナ禍の今、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性といった言葉に象徴される予測困難な時代を迎えている。

こうした時代をしながら生きていく上で「軸」をもつことが重要だと考える。地域の方々の、自分たちの力で「ゆたかな申を育てる」というような揺るぎない「自分軸」。

幼少期、ふるさとで刻印された心象は、生き方としての「自分軸」に昇華されるものと確信する。だからこそ、協働活動等を通して、子どもたちに地域の方々の温もりのシャワーをしつかりと浴びさせたいと考えている。

そして、未来社会の創り手でもある子どもたちには、心の軸足をふるさとに置いて、地元で、全国で、世界で活躍して欲しいと願っている。

### 心の軸足をふるさとに置く

山口市立串小学校長 山田 泰典

# 日長耳飛

### 「良宝得」

長門市立通小学校長 長尾 誠治



「やっさんどっこいやっさんどっこい よいよいよよいよいよい。」

夏の街に子ども神輿の掛け声が今年も響き渡った。全てはここから始まったような気がする。

コロナ禍において水泳学習の中止が決定した。小さな学校の柱となる伝統行事の遠泳大会に大きな波が押し寄せてきた。遠泳はできないのか？くじら祭りも中止！今年度、このような行事の中止や変更見直しは、どの学校、地域でも同じであったと思う。

そんな中、PTAや地域関係者への説明会を行った。そのときにキーワードとなったのが目指す学

校像である。「子どもたちが『楽しい！』と笑顔あふれる学校」

PTA、学校運営協議会、学校が連携してこれに向けて取り組むことを決めたのが令和元年度末。それゆえに、経験された方もいるだろうが大波に引き込まれそうになりながらも必死に岩場にしがみつく思いで、会議では、「どうやったら夏の行事ができるのか？」

と連夜に及んで話し合った。やめるという選択肢は取らなかつた。そして、その結果聞こえてきたのが神輿の掛け声だった。子どもたちの元気な声がかすかな声。はつきり言つてとても気持ちよかつた。小規模学校だからこそできる取組だが、この後、おやじの会の協力を得て、プチ遠泳大会を含む夏の大会イベントも行われた。

とかく今の世の人の繋がりは「点と線」であると言われる。それが、会議等を重ねるうちに子どもたちを中心として人間関係が「点と線」から「面」へと広がって深まっていった。面となった通の集団は、協働し、交流の輪を広げていった。他地区の団体を招いての名物地引網、市内小規模校との交流、タグラグビー交流、市外の学校との海山交流。育てた三百本の大根を売り歩いている地域の方とのふれあいや餅つき大会。

そんな中で過ごしている通っ子。みんなで作ったTシャツを着て時々こんなことを言うようになった。

「次何する？」  
「〇〇がしたい！」

とてもうれしい言葉であった。通に伝わる伝統の鯨唄「祝い目出度」の締め台詞  
「良宝得（ヨカホイ）」

コロナ対応に追われたが、子どもたちや関わる人々が互いの思いを大切に、歩んできた。鯨唄を日々聞きながら、何か良いものが得られた気がする。

◆熊毛地域で郷土史を研究しておられる林 芙美夫さんのお名前は、前からよく存じており、機会があればお会いしてお話を聞かせていただきたいとかねがね思っていました。現在も郷土史研究を続けておられる林 芙美夫さんにお話を伺いました。

※郷土史を研究するようになったきっかけを教えてください。

わたしは電電公社（現NTT）に入社しました。仕事の傍ら若い時から写真が趣味でしたが、生涯撮り続けるテーマを決めようと思い立ち、「ふるさとの変遷」をそのテーマに決めました。撮りためた写真をまとめたと思います、昭和三十四年に「田布施史蹟名勝案内」を自費出版しました。その際、写真に解説を付けるために地方史をかじったところ、それが面白くてこの道に入りました。また、「日本民俗学」の創始者である柳田國男翁をご紹介いただき、わたしの地方史に対する思いを手紙にして差し上げたところ、写真入りののがきでご返事をいただき、深く感激しました。「定本柳田國男集」という全集を買いました（本代にはずいぶんつき込みました）、貪るように通読しました。こうして柳田民俗学の虜になってしまったことが今のわたしの原点になるのかもしれない。

※熊毛地域の歴史について教えてください。

熊毛の歴史を知るには、「熊毛水道」を理解しておく必要があります。大波野の明地遺跡の発掘調査で、弥生時代の海岸線が想定されました。現在の柳井から新庄、余田を経てさらに平生湾に至る平野部は一連の水道だったので。この水道へ入ってくる船から望まれる位置に大きな前方後円墳が造られています。柳

### 探訪シリーズ この人 この歩み 郷土史への思い



元田布施町郷土館長

林 芙美夫 さん

井方面からは茶臼山古墳、平生方面からは白鳥古墳と神花山古墳です。田布施には山口県で最も古い古墳である国森古墳、西日本でも有数の巨石古墳の後井古墳があり、古墳が熊毛水道沿いにずらりとあるのです。この地域は古墳の多さ大きさと県内屈指です。このことから、水道の奥まった位置にある城南地域に熊毛王国の本拠地があったものと考えています。古代史の教育史料として大変おもしろい所です。

す。過去を問うことは現在から未来への問いかけでもあります。昭和二十年八月、光海軍工廠の空襲で、当時学徒動員で働いていた熊毛高等女学校の生徒、卒業生二十三名が尊い命を失いました。そのご遺族の方々、が当時を振り返ってまとめた文集を、現在田布施地方史研究会の会誌に連載中です。先人が経験したこの悲しい歴史は平和教科書であると言えます。

子どもたちには、ふるさとにゆかりのある人物を知って欲しいと思います。明治を代表する近代文学者として著名な国木田独歩もその一人です。独歩が「心のふるさと」といって懐かしんだのが田布施地方です。独歩は父の仕事の関係で、短い生涯の大半を山口県で過ごしており、田布施で暮らした一時期が独歩に大きな影響を与えました。「婦去来」「富岡先生」など、田布施地方を舞台とした作品が多数あります。

また、民俗学には地形地名や利用地名などの分類があります。古い地名が命名された由来や意味が分かる面白さを子どもたちが感じてくれたら嬉しいです。

※学校の教職員や子どもたちに伝えたいことがありますか。

わたしの座右の銘は「温故知新」で

### 編集後記

令和二年度は、新学習指導要領の完全実施とともに、コロナ禍において、充実した教育活動を展開することが求められた一年であった。児童の命を守り、生きる力を育むために、何が最善か、考え、模索してきた。その結果、各支部・各校において状況に合わせた柔軟な発想・取組が、次々と生まれてきている。

今年度も、皆様のお力をお借りして、年二回の「会報」発行を無事に終了することができた。「研究紹介」「支部情報」では、各支部の独自性をもった取組や活動を紹介すること、「飛耳長目」では、地域や学校の色ある取組について学ぶことができた。また、「この人この歩み」では、県内の様々な分野でご活躍の方の熱い思いやご示唆を頂くこともできた。さらに、今号には、計四十一名の退職校長先生から頂いた珠玉の言葉を掲載している。お一人お一人のメッセージから、これまでの教職人生の中で培われた豊富なご経験と温かさが伝わり、今後の学校経営に向けて、勇気を頂くことができた。

今年度の編集委員八名は、皆様の思いをつなぐという役割を大切に、編集に取り組んだ。

結びにあたり、玉稿を賜った皆様に感謝の意を表し、編集後記とした。

◆来年は国木田独歩生誕百五十年にあたり、記念事業も計画されるとか。若いころに足を踏み入れたこの道を生涯歩み続ける林さんに大きな感銘を受けました。

（田布施町立麻郷小学校 瀨本 満登）